

はじめに

平成 24 年度は、診療報酬改正の年でありました。診療報酬本体としては 1.38%のプラス改定ではありましたが、役割分担の明確化やチーム医療の促進など、病院のめざすべき姿がより明確に示された改正となりました。

役割分担の明確化に関しては、当院は従前から急性期医療、そして地域医療支援病院として地域の医療機関との連携の促進に力を入れておりますが、平成 24 年度においては手術の受入れの拡大を図るべく、無影灯や滅菌器の更新などの環境整備を行うとともに、超音波内視鏡など新たな技術に対応できる機器の整備を図りました。また地域連携クリティカルパスの運用拡大など、地域の医療機関との連携に力を注いだ結果、連携医療機関は 325 機関（前年度 303 機関）と増加し、紹介率は 56.1%（前年度 52.8%）、逆紹介率は 75.0%（前年度 72.4%）と向上することができました。

またチーム医療においては、新たに病棟薬剤師を配置して服薬管理等の充実を図るとともに、感染防止対策地域連携加算を算定して地域の医療機関と感染防止に関するカンファレンスを合同で開催することに加え、加算の対象外の医療機関に対しても求めに応じて感染防止に関するコンサルテーションを行うなど、地域全体で感染防止を図る取り組みを開始いたしました。

さらに当院は、急性期病棟に加え、回復期リハビリテーション病棟を有しており、そのことを強みとして、リハビリテーション医療の充実を図って参りました。具体には、理学療法士などを増員して回復期病棟において 365 日のリハビリテーションを行うとともに、診療報酬改正後新たに再編された回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の承認を受け、より充実したリハビリテーションを提供できる体制を整備いたしました。

これらの取り組みを行った結果、平成 24 年度の収支は 1 億 4 千 8 百万円の赤字に抑えることができました。前年度と比較すると、2 億 7 千 3 百万円の収支改善となります。これは、市立病院改革プランで設定した平成 24 年度の収支目標（2 億 6 千 5 百万円の赤字）の範囲内であり、改革プランがスタートして 4 年連続の目標達成となりました。また、一般会計からの繰入金を除いた実質的な赤字額は 3 億 6 千 5 百万円となっており、改革プラン策定前と比較すると、約 8 億 8 千万円の収支改善を達成することができました。

医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっておりますが、今後も引き続き、自治体病院としての役割を果たしつつ、経営の健全化を図り、「地域の皆様に信頼され、愛される病院」として地域医療に貢献してまいります。

平成 25 年 8 月

箕面市病院事業管理者 重松 剛

箕面市立病院総長 田村 信司

箕面市立病院病院長 黒川 英司